

丸山 英二（英米法＝医事法・教授）

I 研究・教育活動の総括と今後の展望

この期間における研究活動は、主として、インフォームド・コンセント、臨床研究、遺伝医学、生殖補助医療、疫学研究・公衆衛生活動、医療記録の開示、個人情報保護、臓器移植、精神医療などに関する法律問題を対象とするものであった。

今後なすべき仕事としては、刊行後 16 年を経た講義案『入門アメリカ法』の改訂、遺伝医学・遺伝相談、臨床研究、生殖補助医療、精神医療の法律問題についての研究をまとめること、そして、わが国の医事法の英文概説書の執筆、と掲げることができるが、時間的能力的制約を思うとはなはだ心許ないものがある。

II 研究活動の内容と自己評価

1 研究成果

（著書）

なし。

（論文）

「医学研究における個人情報保護」宇都木伸・菅野純夫・米本昌平編『人体の個人情報』（日本評論社）2004 年 06 月 127～150 頁

「ゲノム医科学と社会——法学の立場から」文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「ゲノム」4 領域ゲノム医科学ネットワーク委員会、同統合ゲノム社会との接点委員会編『ゲノム医科学と社会——個人情報の保護を中心に』2004 年 07 月 69～84 頁

「生命科学研究に関する政府指針管見」SRL 宝函 2004 年 07 月 28 巻 1 号 42～46 頁

「多胎減数手術の倫理と法的問題点」産婦人科の世界 2004 年 08 月 56 巻 8 号 99～104 頁

「インフォームド・コンセント及び、代諾をめぐる諸問題と政府指針（前半）」Organ Biology 2004 年 12 月 11 巻 4 号 333(53)～338(58) 頁

「インフォームド・コンセント及び、代諾をめぐる諸問題と政府指針（後半）」Organ Biology 2005 年 04 月 12 巻 1 号 65～72 頁

「シンポジウム『生命倫理と法』アメリカ」比較法研究 2005 年 05 月 66 号 13～24 頁

「シンポジウム『臓器移植をめぐる今日の問題』わが国の法律・法案における承諾要件」年報医事法学 2005 年 08 月 20 号 50～56 頁

「『人体情報に関する生命倫理基本法』（『人倫研プロジェクト』ワーキンググループ・提言『身体・組織の利用等に関する生命倫理基本法』（4）——（4）提言・その 4）」北大法学論集 2005 年 09 月 56 巻 3 号 1486～1461 頁

「個人情報保護法」分子細胞治療 2005 年 10 月 4 巻 5 号 67～70 頁

「死と臓器移植をめぐる生命倫理」坂本百大・青木清・山田卓生編『生命倫理——21 世紀のグローバル・バイオエシックス』（北樹出版）2005 年 10 月 125～139 頁

「ゲノム医科学と社会——法学の立場から」文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「ゲノム」4領域ゲノム医科学ネットワーク委員会・統合ゲノム社会との接点委員会編『ゲノム医科学と社会』2006年02月127～138頁

(研究報告・講演)

「先端医学と生命倫理」厚生労働科学研究費補助金・先端医学研究等普及啓発セミナー「先端医学の普及・発展を目指して—市民とともに倫理を語る」(リーガロイヤルホテル京都・新潟ワシントンホテル・ホテルグランコート名古屋)2004年5～7月ヒューマンサイエンス振興財団

「生命倫理と法・Ⅱアメリカ」比較法学会第67回総会全体シンポジウム(金沢大学)2004年6月比較法学会

「Genetic Testing of Children for the Sake of Other Family Members」15th World Congress on Medical Law (Sydney Convention and Exhibition Centre)2004年8月 World Association on Medical Law

「医療と人権——医療と生命倫理と法」特定医療法人愛仁会グループ診療部・管理職研修会(大阪府病院年金会館)2004年10月特定医療法人愛仁会

「バイオテクノロジーと生命倫理と法」バイオテクノロジー基礎講座(臨床研究情報センター)2004年10月TRI・神戸大学共催

「医療過誤と法律・個人情報保護法と医療情報」医療苦情・事故対応のための実践講座(九州大学医系キャンパス百年講堂)2004年10月九州大学医学研究院医療ネットワーク学講座

「医事法学と生命倫理」日本生命倫理学会第16回年次大会(鳥取環境大学)2004年11月日本生命倫理学会

「わが国の法律・法案における承諾要件(シンポジウム『臓器移植をめぐる今日の問題』)」第34回日本医事法学会総会(明治大学駿河台キャンパス)2004年11月日本医事法学会

「医療と生命倫理と法」兵庫県災害医療センター医療安全対策研修会2005年1月兵庫県災害医療センター

「遺伝子診断・検査と差別」総合科学技術会議・生命倫理に関する勉強会(中央合同庁舎4号館)2005年1月総合科学技術会議

「国の倫理指針によるバンク利用のあり方と研究機関のIRBの役割」第4回ヒューマンサイエンス研究資源バンク技術講習会「“ヒト組織”の研究資源化」(千里ライフサイエンスセンター)2005年1月ヒューマンサイエンス振興財団

「地域がん登録の法的倫理的環境整備に関する研究」平成16年度第3次対がん総合戦略研究事業研究成果発表会((財)がん研究振興財団国際研究交流会館)2005年3月厚生労働省

「カルテの電子化における個人情報の保護——(2)法律家の立場から(シンポジウム『精神医療における個人情報の保護』)」法と精神医療学会第20回大会(慶應義塾大学信濃町キ

キャンパス北里講堂) 2005 年 3 月法と精神医療学会

「Ethical and Legal Framework and Aspects of Biobanks in Japan」The Legal Implications of Biobanking(Taipei International Convention Center)2005 年 8 月 National Tsing Hua University

「医療事故と法律；医療行為と刑法；個人情報保護法と医療情報」平成 17 年度医療事故・苦情対応のための人材養成講座（九州大学医系キャンパス百年講堂）2005 年 9 月九州大学医学研究院医療ネットワーク学講座

「遺伝医学に関する各種ガイドラインの法的・倫理的側面」日本人類遺伝学会第 50 回大会（川崎医療福祉大学）2005 年 9 月日本人類遺伝学会

「個人情報保護法」第 43 回全国大学保健管理研究集会（山形テルサ）2005 年 10 月（社）全国大学保健管理協会

「オーダーメイド医療実現化プロジェクトと ELSI 委員会」盛岡「オーダーメイド医療を考える」公開シンポジウム（盛岡市民文化ホール）2005 年 11 月「オーダーメイド医療を考える」シンポジウム実行委員会・ELSI 委員会

「先端医学と倫理：再生医療等先端医学研究実施時にはどのような倫理的配慮が必要か——法律の立場から」平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金・先端医学研究等普及啓発セミナー（神戸国際会議場）2005 年 12 月ヒューマンサイエンス振興財団

「地域がん登録の法的倫理的環境整備に関する研究」平成 17 年度第 3 次対がん総合戦略研究事業研究成果発表会（（財）がん研究振興財団国際研究交流会館）2006 年 1 月厚生労働省

「子どもが組織ドナーになることの法的倫理的考察」厚生労働科学研究費成果報告会／第 5 回ハッピースマイルクラブ例会（神戸大学医学部附属病院・神緑会館）2006 年 2 月神戸大学医学系研究科小児科学教室

2 研究成果の概要と自己評価

自らの関心のままに研究対象が広がるとともに、仕事量も依頼されるままに増加したため、個々の仕事にあてる時間が不足しがちになってきている。初心に帰り、丹念に仕事をするよう心懸けたい。

それにしても、最近では、原稿を無理に書くようにし向けてくれる編集者、講演で話すように半ば強制してくれる人・団体、講演会や研究会のようなところで丸山の述べたことについて過ちを指摘してくれる人、新しい内容の授業をするよう求めてくる大学、など、周囲の方々のおかげで、自分の自由意思ではとてもやろうとは思わないこと、できるとは思えないことをさせられ、結果的には、不十分なものであるが、なにがしかの成果が残り、また、何よりも得難い体験・経験を積ませて戴いている。このことに思いを致し、あらためて感謝したい。

3 法曹実務経験の概要と自己評価

特記すべきことはない。

Ⅲ 学内活動

1 学部

〔担当講義〕

英米法 2004 年前期 4 単位

英米法（夜間主）2004 年前期 4 単位

英米法 2005 年前期 4 単位

1 年次演習 2004 年後期 2 単位

演習 2005 年後期 2 単位

〔自己評価〕

英米法に関しては、教科書に使っている拙書『入門アメリカ法』の改訂をなすべき時期を迎えているにもかかわらず、日々の仕事にかまけてできないでいる。部分的改訂にせよ、1 日も早く第 2 版の刊行に持ち込みたい。演習に関しては、自分の研究の一端を学生の方に伝えることができたと願っているが、今ひとつうまく授業を展開できずにいる。しかし、受講生の意見を聴くのは勉強になり、また、わずかではあるが毎年の開講を求める声もあるので、2007 年度からは毎年の開講を目指したい。

2 法科大学院

アメリカ法 2005 年前期 4 単位

〔自己評価〕

アメリカ法の英文資料をさほどためらうことなく処理できる能力の涵養を目指して授業を行ったが、英文資料の取扱いに手こずり、また、受講生の講義の準備に費やすことのできる時間も限られているので、どのようなあり方がよいのか暗中模索の状態にある。とりあえずは、教材・資料からあまり離れることなく、わかりやすい授業を提供に努めたい。

3 法学研究科・博士課程

〔担当講義〕

英米法特殊講義 2004 年後期 2 単位

英米法特殊講義 2005 年後期 2 単位

〔研究指導〕

指導学生数〔2004 年度〕 2 人 〔2005 年度〕 2 人

〔指導学生の学会活動〕

対象期間中に特記すべきことはない。

〔指導学生の就職・進学状況〕

対象期間中に特記すべきことはない。

〔自己評価〕

英米法特殊講義に関しては、貴族院の司法的機能の廃止、最高裁判所の設置、大法官の職務権限の縮小といった激動期にあるイギリス憲法をとりあげようと、それなりに準備も行っていただいたのであるが、受講生がおらず、現実には不開講に終わった。深く反省し、より基本的なところに焦点を定める授業展開を考えたい。研究指導に関しては、諸般の事業で休学状態にある学生が多かった。就職を求める学生がいるものの、指導が行き届かずその実現が得られていないので、この点も深く反省したい。

4 FD活動

対象期間中に特記すべきことはない。

5 学内各種委員等

医学系研究科医学倫理委員会委員，同遺伝子解析研究倫理審査委員会委員，医学部付属病院遺伝子治療臨床研究審査委員会委員

IV 学外活動

1 学界における活動

〔所属学会〕

日本医事法学会，日本生命倫理学会，日米法学会，比較法学会，法と精神医療学会，日本疫学会。

〔学会等役員〕

日本医事法学会，日本生命倫理学会，日米法学会，比較法学会，法と精神医療学会の各理事，日本生命倫理学会の情報委員会委員。

〔学会誌等編集委員〕

日本医事法学会機関誌『年報医事法学』編集幹事（2004年7月まで），日本生命倫理学会機関誌『生命倫理』編集委員，日米法学会機関誌『アメリカ法』編集委員。

〔シンポジウム・学術講演会等の主催等（国内、国際）〕

日本医事法学会総会第34回総会シンポジウム企画委員（2004年）。

〔研究会活動〕

唄孝一教授を囲む『代諾勉強会』に参加している。

2 教育活動

2004年6月30日に名古屋大学大学院医学系研究科のヤング・リーダーズ・プログラム＝コロキウムにおいて，“Genetic Testing of Children for the Sake of Other Family Members: Ethical and Legal Issues”の課題で講義を行った。

3 社会における活動

※期間を明記したもの以外は、全期間にわたって委員を務めた。

独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（第1段審査〔書面審査〕委員）（2004年1月～2005年12月）、神戸市保健医療審議会委員、神戸市精神医療審査会委員、兵庫県精神障害者への適切な医療の提供のための有識者会議委員（2004年9月～2005年3月）。

神戸市立中央市民病院倫理委員会委員、兵庫県立こども病院倫理委員会委員、兵庫県災害医療センター倫理委員会委員、神戸赤十字病院倫理委員会委員、兵庫県立加古川病院倫理委員会委員、(財)放射線影響研究所被爆二世健康影響調査倫理委員会委員、九州大学病院心臓移植外部評価委員会委員（2005年7月～）、国立成育医療センターミレニアムプロジェクト推進のための共同研究第三者委員会委員（2004年12月～2005年3月）、同ヒトES細胞研究倫理審査委員会委員（2005年11月～）、独立行政法人医薬品医療機器総合機構研究業務運営評議会委員（2004年7月～2005年3月）、同実用化研究評価委員会委員（2004年7月～2005年3月）、独立行政法人医薬基盤研究所運営評議会委員（2005年5月～）、同実用化研究評価委員会委員（2005年5月～）、同研究倫理審査委員会委員（2005年6月～）、先端医療振興財団生命倫理審議会委員、同治験審査委員会委員・医薬品等臨床研究審査委員会委員、同臨床研究情報センター倫理委員会委員、ヒューマンサイエンス振興財団資源供給審査委員会委員、同研究資源バンク倫理審査委員会委員、(社)日本臓器移植ネットワーク西日本支部運営委員会委員（2004年7月～）、田辺製薬(株)ヒトES細胞研究倫理審査委員会委員、シスメックス(株)中央研究所研究倫理審査委員会委員、ステムセルサイエンス(株)ヒトES細胞研究倫理審査委員会委員、同ヒト由来資料研究倫理審査委員会委員(2005年8月～)。

日本疫学会倫理審査委員会委員、がん研究に携わる特定領域研究倫理審査委員会委員（2005年7月～）、独立行政法人科学技術振興機構「心身や言葉の健やかな発達と脳の成長」研究に係る倫理規定検討委員会委員（2004年6月～9月）、同倫理審査委員会委員（2004年10月～）、「個人の遺伝情報に応じた医療の実現プロジェクト」ELSIワーキンググループメンバー（2003年8月～2004年9月）、同ELSI委員会委員（2004年9月～2005年8月）、(財)日本公衆衛生協会先端医科学研究に関する倫理的・法的・社会的問題についての調査研究ELSI委員会委員（2005年9月～）、日本多施設共同コホート研究社会的諸問題検討委員会委員（2005年5月～）、JPHC研究遺伝子解析研究実施検討委員会委員（2005年1月～2006年3月）。

4 国際交流

〔海外出張〕

2004年12月ドイツ（ドイツにおける地域がん登録の実態調査）、2005年2月フランス

(フランスにおける地域がん登録の実態調査), 2005 年 8 月台湾 (バイオバンクの法的問題に関する国際会議出席及び生命倫理に関する資料収集), 2005 年 11 月連合王国 (遺伝医学と社会との接点のあり方に関する調査と資料収集)。

〔外国人研究者受入れ〕

Kenny Gundle (ケニー・ガンドー, スタンフォード大学卒, フルブライト奨学金による留学生)。

5 研究シーズ (現時点で記入は不要です。)

該当なし。

6 受賞

該当なし。

V 外部研究補助金取得状況

1 科学研究費補助金

- 基盤研究(C)(2), 医療・医学研究における人体の利用に関する倫理的法的諸問題の実証的・比較法的研究, 研究代表者, H15~17 年度
- 特定領域研究, ゲノム研究成果の医療への応用に関する研究, 分担研究者 (福嶋義光), H17 年度
- 厚生労働科学研究費, 地域がん登録の法的倫理的環境整備に関する研究, 主任研究者, H16~18 年度
- 厚生労働科学研究費, タスクフォースによる先端医学と社会の調和のための基盤整備, 分担研究者 (小林英司), H17 年度
- 厚生労働科学研究費, 厚生労働行政施策の基盤となる疫学研究の適切な推進に関する研究, 分担研究者 (玉腰暁子), H15~17 年度

2 財団等からの研究助成

該当なし。

3 その他